

## 大草谷津田いきものの里 自然観察会

### クイズで一周 大草谷津田

山口 由富子（市原市）

日 時：2013 年 1 月 20 日（日） 10：30～12：30 天気：晴れ

参加者：14 名（うち子ども 4 名）

担当指導員：田井中信子 山口由富子

当初、このプログラムを組むに当たり、目的ははっきりしていたが、その手法が定まらず、だいぶ難渋した。なにしろ季節は厳寒。しかも参加者の数がかめめない。そこで、いつものスタイルではなく、参加型のものにしようと提案。受け身ではなく、参加者の方が積極的に行動を起こし、意見をだして観察会を進めるというもの。私たち担当指導員はファシリテーターとして接しようとした。

13 項目にわたるポイントを用意し、三択のクイズに答えたり、取り上げた動植物や自然のたまたまいについて、意見を出し合い、それを用紙に書き込んでいく。

初めは、多くの参加者が行動の当事者となるよう人数を細分化すべく、担当指導員を新たにお二人にお願いし、4 班体制で行動する予定だったが、参加者が少なく（遅れての参加者はあったが）2 班体制でスタートした。めじろんばで左右に分かれ、最後に時間を合わせて合流し、答え合わせと意見交換をすることとした。結果としては、20 分のタイムラグが生じ、一部の方に寒風の中でお待ちいただくというご迷惑をおかけしたことは、深くお詫びしたい。効果としては、参加者の方の体験や知識、提言など、たくさんのお話を聞くことができた。いつも参加している芳我さんが「あの寡黙な A さんが、こんなにお話をしてくださるなんて！」とうれしい気づきを知らせてくださった。

#### 【ポイントでの設問と出た意見・話題】

マンリョウからの気づき：鳥による種まき、葉の特徴、白い花から赤い実とは？ めでたい！

ヤツデ：葉の切れ込みが奇数、葉は日光を受けるため重ならない、昆虫や鳥にとって冬場の

レストラン、武家は玄関には植えない、ラフカディオ・ハーンまでに話題が及んだ  
エノキ：オオムラサキの幼虫のエサ、枯れ葉のなかで 3 齢幼虫が越冬、落ち葉の大切さ

芽ばえを見つけよう：ニワトコの裸芽、コバノガマズミは毛皮のコート、アオキの芽、コナラの発芽  
ロゼットとは？：太陽の熱と光を吸収するため、葉が重ならないように、茎を伸ばすエネルギーを節約 春の力を貯めている！

春を待つ斜面林はいま、どんな様子？：ドングリの芽ばえ、冬芽合唱団、アオキの実など

湧水の温度：実測 13 度（11 時 11 分 気温 10 度）と 14 度（データ不明）

ワラ卷きを行う理由：本来は害虫を処分するためだが、大草では食物連鎖の関係上保護している

カエルの産卵について：田んぼは、よい産卵場所であり、この自然を守りたい

オニヤンマの産卵について：大草の流れは、産卵に適した場所だ

イヌシデの名前について：雄花につく果苞が四手のようなから（写真を資料として用意した）

アオキについて：雄株・雌株がある 虫こぶを切開観察

杉林について、フリートーク：林内が暗い 雪が残っている 間伐したら 間伐材も利用  
価値がある 国産材で建築したらよい 市原市ではコミュニティセンターなどを  
市内の木で建てている

まとめ：揺れるシラカシの葉の上で、ムラサキシジミが日向ぼっこしていた ムモンアシナガ  
バチの巣が落ちていた モグラが元気！ 初めて知ることもあった 越冬する虫たち  
に感動！ など